

平成 22 年度

産学連携による分野別インターンシップ制度のあり方に関する調査・研究

－中間報告書－

平成 23 年 3 月 29 日

産学連携建築教育連絡会議

全国建築系大学教育連絡会議

1. 調査・研究の目的

全国建築系大学教育連絡協議会の調査によると、改正建築士法により導入された大学院インターンシップ制度においては、産学間で考え方に乖離が存在するだけでなく、大学によって取得単位数と就業時間の関係等が異なるなど大学間でもその目的や考え方、書類の書式が異なっており、現場に混乱を招いている様子が窺われる。

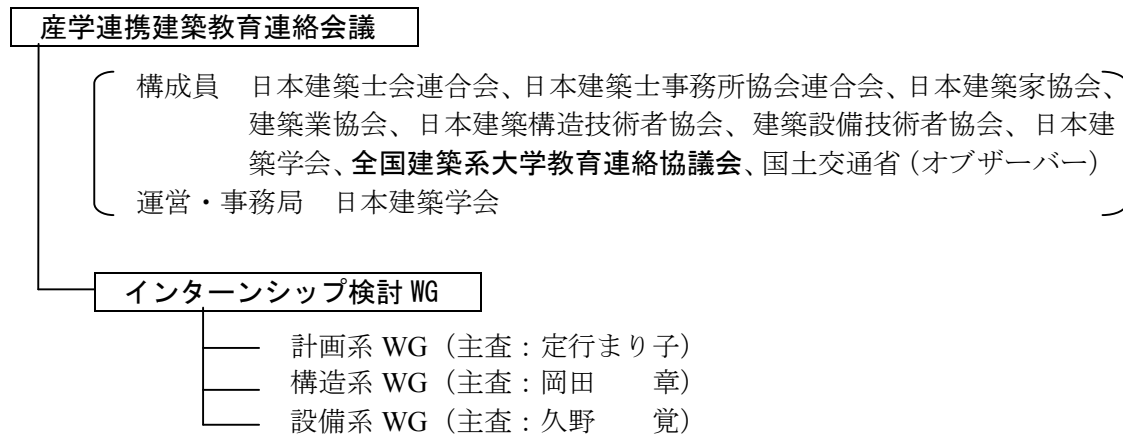
一方「産学連携建築教育連絡会議（2009.6～）」では、産学の代表者が一同に会し、インターンシップ制度に関する情報交換・意見交換を行っているが、受入側からは「実務訓練プログラムや費用負担等に関する“共通ルール”が欲しい」との声もある。

そこで、産学双方の現場で抱えている問題点を調査・整理するとともに、インターンシップのガイドラインあるいは運用指針的な資料を取りまとめることによって、今後のインターンシップ制度の質的向上と運営の円滑化に資することを目的とする。

2. 調査・研究の方針と項目・方法について

<調査・研究の体制>

産学連携建築教育連絡会議の下に、3つの分野別 WG から構成される「インターンシップ検討 WG」を設けて検討を行っている。



<開催概要>

- ・ 計画系・構造系・設備系 全体 WG 2010.8.5
- ・ 計画系 WG ①2010.8.5、②10.6、③11.22、④2011.1.11
- ・ 構造系 WG ①2010.8.5、②9.3、③10.19、④2011.1.21
- ・ 設備系 WG ①2010.8.5、②10.29、③2011.1.20、④2.15

- ・ シンポジウム「インターンシップの円滑な運用に向けた産学連携の取り組み」
2010.9.11、9:30～13:00、於・富山大学（建築学会大会会場）

- ・産学連携建築教育連絡会議

2010.11.8、15:00～17:00

- ・全国建築系大学教育連絡会議

①2010.11.5、17:30～19:30、②2011.2.9、17:00～19:00

＜調査・研究の方針と項目、方法＞

最初に3系の全体WGで共通認識を形成したのち、各系ごとに、標準的な実務経験プログラム案と書式の検討を行った。一年目は各専門分野の特性に応じた検討を中心とし、3系による理念や書式の統一等については二年目以降の課題とすることを基本方針とした。

【計画系 WG】

まず、インターンシップの共通認識の必要性を踏まえ、「共通理念」を検討した。すなわち、インターンシップの目的を「産」「学」「産学共通」ごとに整理するとともに、大学院教育におけるインターンシップの意義を明示した。これらは計画系にとどまらず他系においても共有できるものとなる。

また、インターンシップで使用される共通書式（フォーマット）として「共通データシート」「研修記録・実施報告シート」を検討した。「共通データシート」には、学生が希望する研修内容（計画系）と受入先の選択肢が明記されているが、この内容をカスタマイズすれば他系でも利用可能となる。この書式は、申請～単位認定まで一貫した利用が可能となり、関係者の負担軽減のみならず、様々なメリットが生じると認識している。一連の流れが簡潔でスムーズに流れるような柔軟な制度化を検討している。

【構造系 WG】

検討の開始にあたり、まずWGの構成メンバーの構造設計部門におけるインターンシップの受け入れの仕組み、および学生6名から実際に経験したインターンシップの内容と感想を報告してもらい、実態把握と問題点を調査した。そのうえで、構造系インターンシップの実施プログラムの例を設計のフェーズごとにまとめた。これらは、インターンシップで実施すべき項目を網羅したのではなく、一連の構造設計の流れのなかで、自分が体験したのはどの部分なのかが容易に把握できることを目的としている。また、産学双方の負担軽減と共通認識の醸成のため報告書の書式を整備することも検討している。

【設備系 WG】

まず、設備設計者が実際に行う設計業務・プロセスおよび設備設計者が具備すべき技術・能力を整理した。続いて、インターンシップにおいてどのような経験が可能か、との観点から、設備系インターンシップのメニュー案を取りまとめた。このメニュー案をもとに、実際の実施例を参考にしながらモデルプラン（参考例）を数種類検討した。また、大都市・大規模組織だけでなく、地方都市・中小規模組織にも十分適用可能なものとなるよう配慮しながら検討を進めている。

*

2010年9月11日には建築学会の北陸大会（富山大学）において、シンポジウム「インターンシップの円滑な運用に向けた産学連携の取り組み」を開催し、分野別WGの中間報告を行うとともに、インターンシップに送り出した大学側と、受け入れた企業側担当者から生の声を頂きながら、今後のあるべき姿について意見交換を行った。

その後、産学連携建築教育連絡会議（2010.11.8）、および全国建築系大学教育連絡会運営委員会（2010.11.5、2011.2.9）においても各WGの中間報告が行われ、それぞれの検討内容について意見交換を行った。

また、2010年度はインターンシップ制度の開始2年目にあたることから、「2010年度大学院インターンシップの受講状況に関する調査」として、各大学院におけるインターンシ

ップの履修申告者数・単位取得者数を「M1」「M2」ごとに調査しているところである。

3. 今後のスケジュールについて

次年度早々に各WGの中間報告を取りまとめ、4月18日の産学連携建築教育連絡会議で意見交換を行う。その結果をふまえて2011年度のインターンシップにおいて、各系の中間報告書を「ガイドライン」として試用してもらうとともに、関係各方面からの意見聴取も踏まえて2011年度の最終報告書を取りまとめる予定である。

なお、2011年8月25日には昨年同様、建築学会の関東大会（早稲田大学）においてシンポジウム「インターンシップの円滑な運用に向けた産学連携の取り組み」を開催し、各WGの成果報告とともにインターンシップを体験した学生ならびにその受け入れ側から実際の体験を語っていただき、産学の意見交換を行うことになっている。

また、必要に応じて各種の実態調査も継続して行っていく予定である。

4. 委員一覧

○産学連携建築教育連絡会議

<日本建築士会連合会>

佐藤東亜男（(社)愛知建築士会会長、(社)日本建築士会連合会副会長、(株)田中総合設計代表取締役）
三井所清典（(株)アルセッド建築研究所代表取締役所長）
山中 保教（(社)日本建築士会連合会専務理事）

<日本建築士事務所協会連合会>

上野 浩也（日事連常任理事・教育情報委員長、(株)上野建築事務所、京都府建築士事務所協会会長）
宮原 克平（(株)アーバン設計代表取締役）
北野 芳男（(社)日本建築士事務所協会連合会常務理事）

<日本建築家協会>

古谷 誠章（早稲田大学教授）
筒井 信也（(社)日本建築家協会専務理事）

<建築業協会>

尾崎 勝（鹿島建設(株)常務執行役員建築設計本部長）
山木 茂（大成建設(株)設計本部計画群統括）
今倉 章好（(社)建築業協会常務理事）

<日本建築構造技術者協会>

新谷 真人（(株)オーク構造設計取締役）
福島 正隆（(社)日本建築構造技術者協会専務理事）

<建築設備技術者協会>

牧村 功（(株)日建設計顧問）

<日本建築学会>

佐藤 滋（(社)日本建築学会会長、早稲田大学教授）
真木 康守（(社)日本建築学会専務理事・事務局長）

<全国建築系大学教育連絡協議会>

吉野 博（東北大学教授）
岡田 章（日本大学教授）
久野 覚（名古屋大学教授）
倉田 直道（工学院大学教授）
定行まり子（日本女子大学教授）
水野 一郎（金沢工業大学教授）

<国土交通省（オブザーバー）>

遠山 明（国土交通省住宅局建築指導課課長補佐）
恵崎 孝之（国土交通省住宅局建築指導課係長）

○インターンシップ検討WG

【計画系WG】

主 査：定行まり子（日本女子大学教授）
委 員：有賀 隆（早稲田大学教授）
猪里 孝司（大成建設㈱設計本部パブリシティグループグループリーダー）
倉田 直道（工学院大学教授）
近藤 昇（近藤総合計画事務所代表）
坂東 保則（㈱川崎設計代表取締役）
村松 弘治（㈱安井建築設計事務所東京事務所設計部長）
安田 幸一（東京工業大学教授）

【構造系WG】

主 査：岡田 章（日本大学教授）
委 員：小林 秀雄（㈱日本設計構造設計群グループ長）
高橋 克治（大成建設㈱設計本部構造分野シニア・エンジニア）

【設備系WG】

主 査：久野 覚（名古屋大学教授）
委 員：伊東 民雄（高砂熱学工業㈱技術本部常勤顧問）
山本 雅洋（㈱大林組 設計本部設備設計部 空調・衛生設計課長）
若松 宏（㈱総合設備計画執行役員、環境設計監理部長）
渡辺 健二（㈱日建設計名古屋設備設計室長）
川瀬 貴晴（千葉大学教授、オブザーバー）

○全国建築系大学教育連絡協議会 運営委員会

会 長：佐藤 滋（日本建築学会会長、早稲田大学教授）
運営委員長：吉野 博（日本建築学会副会長、東北大学教授）
委 員：秋山 恒夫（職業能力開発総合大学校東京校教授）
岡田 章（日本大学教授）
小野 徹郎（相山女学園大学教授）
神田 順（東京大学教授）
久野 覚（名古屋大学教授）
倉田 直道（工学院大学教授）
古瀬 敏（静岡文化芸術大学教授）
定行まり子（日本女子大学教授）
末廣 香織（九州大学准教授）
瀬口 哲夫（名古屋市立大学教授）
瀬戸口 剛（北海道大学准教授）
西出 和彦（東京大学教授）
平野 吉信（広島大学教授）
古谷 誠章（早稲田大学教授）
増井 正哉（奈良女子大学教授）
水野 一郎（金沢工業大学教授）
三田 彰（慶應義塾大学教授）
宗本 順三（岡山理科大学教授）
門内 輝行（京都大学教授）
安田 幸一（東京工業大学教授）
山家 京子（神奈川大学教授）

以 上